



第3学年 「共通テストまで、あと2ヶ月」 ～今、「やるべきこと」とは？～

1月18日(土)・19日(日)の共通テストまで残り60日を切りました、3年生の中には、不安を感じている人も少なくないと思います。ただ、焦っても、仕方ありません。また、諦めてしまっても、自分の成長した姿を見ずに終わってしまいます。「現役生は試験当日の朝まで伸びる」と言われますが、大切なのは「やるべきこと」をコツコツと積み上げていくことです。では「今、やるべきこと」とは何でしょうか？

(1) 「基本問題」の正答率アップ ・ 「理」「社」「情報」の追い込み！

共通テストは、決して難問ではありません。また、難問があったとしてもそれは誰にとっても正解しにくいものです。大切なのは、基本問題での失点を最小限に抑えることです。よって、これまで使用してきた問題集や模擬試験の解き直しをしながら、基本問題の完成度を高めていくことが肝要です。また、これから最も伸びが期待できるのは、取り組んできた時間が少ない理科や地歴公民や情報です。受験予定校の配点を睨みながら、即効性の高い科目の対策時間を確保しましょう。勿論、配点が高い国数英の対策も疎かにしてはいけません。

(2) 「過去問演習」で出題傾向を知るとともに、時間感覚をつかむ！

今年度の受験は新課程元年ですが、共通テストの傾向が大きく変わるわけではありません。ましてや、私立大学の一般受験は毎年ほぼ同じ傾向です。過去問を継続的に解いていくと類問の存在に気がつきます。さすれば対策方法も見えてくるはずですが、また、試験本番では、時間管理も重要になってきます。過去問演習の際には、大問の順番も自分なりに工夫しながら、毎回、時間を計って取り組みましょう。

(3) 年内までに、出願先の組合せパターンを考えておく！ (国公立：前期+後期) (私立：挑戦校+現実校+安全校)

自己採点が終わった後の日程は、本当に慌ただしいです。私立大学の一般受験や国公立大学の二次試験対策に集中するには、出願先を考えている暇はありません。また、多くの私立大学の出願締切は共通テストの前日です。よって、国公立大学なら、共通テストで、①目標点が取れた場合・②目標点を少し下回った場合・③目標点を大きく下回った場合の3つのパターンに分けて、前期と後期(中期を含む)の組み合わせを考え、私立大学なら、①挑戦校・②現実校、また、浪人を絶対避けたいなら③安全校を加えて、出願先を決めておくことが大切です。

(4) 受験スケジュールの策定と宿泊先の早期予約 ・ 調査書発行依頼の提出と出願手続き

出願先が決まったら、経費や対策を省くことのできる共通テスト利用型や得意科目を活かせる受験型や受験会場や日程の重複等を考慮しながら受験スケジュールを策定し、宿泊先の確保を早めにしましょう。最後に、あくまで出願は自分自身で行います。現在はweb出願が主流ですので担任が願書をチェックすることはできません。出願や入学の手続きは、保護者の方の協力を得て複数の目で確認しましょう。

第2学年 「大学講義」 ～学問の世界に触れる～

専門分野の講義を通して、探究活動の基盤となる知識を身につけるとともに、知的好奇心の高揚を図り進路意識をより明確にする目的で、10月25日(金)、各分野の専門家の先生を大学から「大学講義」を開催しました。以下は、2年生諸君の感想です。有意義な講義であったことが伝わってきます。



(1) 福島大学 人間発達文化学類 鶴巻 正子 先生 「子どもを伸ばすための指導法」

障害者心理に基づく行動学のお話がとても印象的でした。「障がいがあるからできない」「不利」と決めつけるのではなく、「できること」に目を向けて一緒に成長しながら支援するという考え方に共感しました。将来、私も子どもたちが本当に求めていることを感じ取れる先生になりたいです。

(2) 福島大学 経済経営学類 佐藤 英司 先生 「市場経済における消費者保護」

売り手は、財やサービスの正しい情報を公開し、買い手は、消費に関する知識を身につけ、互いに取引を行う。それを促すのが経済学であり、経済学は社会をよりよくするための学問だと感じた。今回の講義を通じて、大学で経済学を学びたいという思いがより強まりました。

(3) 東北大学 文学部 甲田 直美 先生 「色彩名称から世界の言語を見てみると」

基礎的な勉強を教わる高校の授業に対して、大学の講義は専門的な知識を学ぶことができると改めて思いました。また、先生に指名されることも多く、受け身ではなく主体的に自分の頭で考え、自分の意見をはっきり伝える力を身につけなければならないと感じました。

(4) 国際教養大学 国際教養学部 Kyle SHUTTLEWORTH 先生 「自動運転の倫理」

1時間半ずっと英語での講義でしたが、聞き取れる単語も少なくなく、楽しく授業を受けることができました。また、自分が探究で調べている事柄と重なっていたので参考になりましたが、本当はもっと知りたかったので、恥ずかしがらず積極的に質問をすればよかったと後悔しています。

(5) 会津大学 コンピュータ理工学部 大竹 真紀子 先生 「SLIMの月面へのピンポイント着陸の成果」

好きなことを仕事していると聞くと楽しそうなイメージばかりでしたが、やりたいことを追求していくことは、それ相応の苦労や努力も必要だと再認識しました。私も講師の先生のように夢中になれるものを見つけたいと思いました。まずは今日の前のことに全力で取り組んでいきたいです。

- (6) **福島県立医科大学 保健科学部** 菅根 稔雅 先生 「リハビリテーションのスペシャリスト」
 患者さんの治療のお手伝いをするだけでなく、心のケアまでも行う作業療法の仕事に魅力を感じました。「たとえ障害が残ったとしても、その方にとっての大切なものをなくさないよう、そして、その人らしい生き方ができるようサポートする仕事」という言葉が強く印象に残っています。
- (7) **山形大学 工学部** 成田 克 先生 「スマホを、もっと小さく、もっと速く、もっと省エネに」
 学校の授業では学ぶことができない深い内容まで教えていただき大変興味を持ちました。そして、半導体の性能を向上させるための開発がいかにか大変であるかということを知るとともに、その研究にやりがいを感じました。私も、是非、エレクトロニクスの分野を大学で学んでみたいです。
- (8) **岩手大学 農学部** 畠山 勝則 先生 「ゲノム編集と農業」
 遺伝子組み換え技術の発展により、農産物の安定供給が実現され、飢餓などの問題も解決できるということを知りました。「とってもミニな世界の変化が、世界的な課題を解決する力を持っている」という言葉が印象的で、進路について考えるきっかけになりました。ありがとうございました。

第1学年「職業観育成講話」～将来について考える～

社会が求める人間像や自らの将来の職業について考えを深め、進路意識を高める目的で、11月8日(金)、郡山市近隣の事業所様より各分野の講師をお招きし、「職業観育成講話」を開催しました。以下は、1年生諸君の感想です。講師の先生の内4名は本校OGの方でした。卒業生の活躍を改めて実感しました。



- (1) **【建設】 矢田工業株式会社** 成田 英樹 様
 地域社会や世界の未来を明るくするための懸け橋として「橋づくり」に携わっているという専務さんの思いが伝わってきました。また、会社を経営するにあたっては、利益の追求ばかりでなく、SDGsなどの社会貢献の視点も大切だということを教えていただきました。
- (2) **【情報】 福島コンピュータシステム株式会社** 庄司 康平・会田美由紀・阿蘇あかり 様
 ITエンジニアは一人で取り組むことが多い職業と思っていましたが、人と話す機会も多くコミュニケーション能力が大切であるとお聞きして驚きました。また、在宅など働きやすい環境が整っているということも魅力的で、私も将来の職業の選択肢の一つにしたいと思います。
- (3) **【製造】 AGC エレクトロニクス株式会社** 朝倉 哲・大内 賢真 様
 想像もできないほど細かく難しい技術を用いて製造されたガラス製品に驚きました。そして、世界のトップシェアを築いている会社が福島県にあることを誇りに思います。チームとして協力しながら考え抜いて高い技術を生み出す、そんな仕事に私も携わりたいと強く思うようになりました。
- (4) **【金融】 郡山信用金庫** 星 浩史・志田 典子 様
 自分の父親が金融機関に勤めてはいるものの普段は仕事の話を開いたりすることがなかったため、今回、金融の意義や役割を知ることができて、私にとってとても良い機会になりました。今日、家に帰ったら、父に詳しく話を聞いてみたいと思います。貴重なお話、ありがとうございました。
- (5) **【流通】 株式会社ヨークベニマル** 木村 祥子 様
 スーパーマーケットは、景気の変動を受けにくい安定した業界であり、地域にとってはなくてはならない「エッセンシャルワーカー」の一つであると実感しました。また、お客様に長く愛されるために、SDGsなどの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいるということを知りました。
- (6) **【法曹】 井上雄光司法書士事務所** 井上 雄光 様
 これまで司法書士についてあまりよく知りませんでした。法律によりトラブルを解決する方法を提案して下さる「頼れる仕事」、そして、時には弁護士さんのように法廷に立つこともある「正義の仕事」だということを知り、「司法書士って、カッコいい」と思いました。
- (7) **【運輸・観光】 郡山観光交通株式会社** 山口 松之進 様
 自分のためではなく、他の誰かが喜んで幸せになることを常に考えて、それをビジネスとして実行している姿に感動しました。「限界を超える体験こそ人を成長させる」今回教わったこの言葉を私も肝に銘じ、今興味を持っていることに真剣に向き合っていきたいです。
- (8) **【国際支援】 二本松青年海外協力隊訓練所 (JICA 二本松)** 山崎 将樹 様
 言語や文化も異なる国で仕事をするのは大変だと思っていましたが、お話を聞いて、新たな価値観と出会えるやりがいのある仕事だと感じました。また、国際支援は、今、自分が目指している獣医師の仕事を通じてもできるということを知り、進路に対する意識が高まりました。
- (9) **【行政】 福島県職員 (本校事務職員)** 橋本 紗希・延山 香織 様
 福島県は豊かな文化と自然に恵まれ、それを「守りたい」「発信したい」、そして、「福島のために何かをしたい」という熱い思いを持った方が県職員となり、県民の人たちがより良い暮らしができるように、幅広い分野で活躍しているんだということを知りました。

第2回 進路希望・学習時間調査結果

全体として国公立大学を志望する生徒が多くいますが、学年を経るごとに減少していく傾向があります。また、進路希望に比して、家庭学習時間が十分に確保されているとは言えません。理由としては「やる気が出ない」という回答が最も多くありました。早い段階で進路意識を明確にすることで、学習に対するモチベーションを向上させていくことが望めます。

進路希望	1年	2年	3年	学習時間	1年	2年	3年
国公立大	78.9	76.9	57.7	4h以上	0.0	0.4	8.5
私立大	16.3	17.3	31.2	4h未～3h上	2.6	1.7	26.9
国公立短大	0.0	0.0	0.4	3h未～2h上	10.3	16.6	43.2
私立短大	0.0	1.3	3.0	2h未～1h上	41.0	47.2	16.7
高等看護	0.0	0.9	4.3	1h未満	23.1	22.7	4.3
専門学校	4.8	3.1	3.0	試験時のみ	23.1	11.4	0.4
就職	0.0	0.4	0.4	合計	100	100	100
他・未定	0.0	0.0	0.0	R 6年10月実施			(単位%)
合計	100	100	100				